

はじめに

脂質異常症は、血液中に脂（あぶら）の成分が増えすぎたり、逆に減りすぎて、健康に問題をもたらす病気です。代表的には、悪玉と呼ばれる LDL コレステロールが多くなり、善玉の HDL コレステロールが少なくなることによって動脈硬化を起こします。心臓の血管に動脈硬化を生じると、心筋梗塞（こうそく）や狭心症など生命に関わる病気の原因となります。生まれつきの遺伝によって起きる脂質異常症もありますが、大部分は運動不足や食事の乱れに起因し、欧米化と呼ばれる昨今の生活習慣の変化が影響しています。

食事や運動を見直したり、身体に合った薬を使って脂質異常症を是正すれば、動脈硬化を予防できることが明らかになっています。ただし、動脈硬化に対する脂質異常症の危険性は、誰もが同じ訳ではありません。過去に心筋梗塞を経験したことのある人や糖尿病にかかっている人など、動脈硬化の病気を特に起こしやすい患者さんほど、より厳格に脂質異常症を管理することが求められます。

日本は、世界に類を見ない少子超高齢社会へ突入しました。お年寄りは若い人に比べて、動脈硬化がさらに進みやすくなります。つまり、動脈硬化の予防は、“転ばぬ先の杖”として、寝たきりを減らし健康長寿を実現するための重要な鍵となるのです。

本書の作成にあたっては、「自分の両親や祖父母に理解してもらえること」を執筆者共通の目安として、できるだけ分かりやすい解説を心掛けました。医療従事者はもとより、患者さんやそのご家族にも、本書を通じて脂質異常症の理解を深めて頂き、必要な時に適切な対応ができるための一助となれば幸いです。

最後に、刊行にあたって多大なご尽力を賜りました医薬ジャーナル社の南晃様ならびに河田昌美様に心より御礼を申し上げます。

2016年4月

千葉大学大学院医学研究院
細胞治療内科学講座

横手 幸太郎